



「福岡県」の誕生と近代

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 福岡県の誕生と地方制度

明治4年(1871)7月14日、「廃藩置県」により、県内には福岡県・秋月県・久留米県・柳川県・三池県・豊津県・千束県が誕生しました。これは江戸時代の旧藩がそのまま「県」とされたものです。ただし福岡藩については、太政官札の贋造(ニセ札作り)が発覚し、他藩に先立つ7月2日に藩が廃止されています。その後11月には福岡県(筑前一国)、三潞県(筑後一国)、小倉県(豊前一国)の3県体制となりました。そして、明治9年4月に福岡県が小倉県を統合、三潞県が佐賀県を統合しますが、8月には三潞県のうち筑後一国が福岡県に統合、また豊前の下毛郡・宇佐郡が大分県に移管されて、現在の県域からなる福岡県が誕生しました。

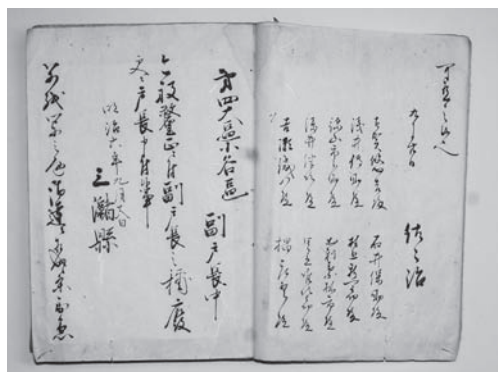
県内の村・浦・町は、明治4年「区」に編成され、

翌年には大区・小区制へと移行します(小郡市三沢は「三潞県第4大区第13小区」)。しかし明治11年に、郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則の「三新法」が制定され、大区・小区制は廃止されました。三新法は、最初の統一的な地方制度で、町村を自治体とし、町村の長となる戸長の民選を認め、府県会を設置し、地方税の財源を明確化しました。

2 自由民権運動と政党政治

自由民権運動は、明治新政府の藩閥官僚による専制的な政治に反発し、国会開設や憲法制定、地租軽減や地方自治を求めて繰り広げられた政治運動です。福岡県内での運動は、主に旧藩領単位で展開し、特に明治10年(1879)の西南戦争後に活発化します。

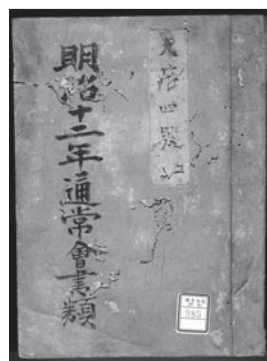
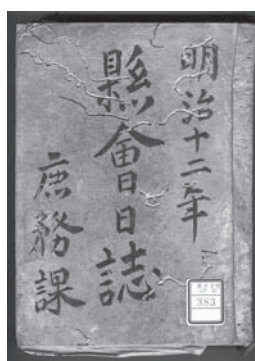
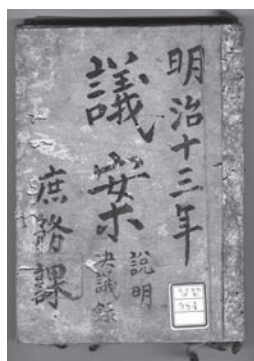
福岡では向陽社や筑前共愛会、久留米では千歳会、柳川では有明会などの組織が生まれ、各地域におい



三潞県の行政文書(「御布告写」山北村庄屋文書)



野田卯太郎(逓信大臣時『野田大塊伝』より)



県会開設当時の史料

(「明治十三年 議案」・「明治十二年 県会日誌」・「明治十二年通常會書類」伊東尾四郎文書)

る運動をリードしました。また、この時期に成立した組織が、その後の県内における政党の基盤となり、指導者の中から県会議員や衆議院議員として活躍する人々も数多く出ています。野田卯太郎や永江純一は、現在のみやま市高田町の出身で、有明会につながる公同社の結成時から自由民権運動に参加しています。明治19年には福岡県会議員、31年に衆議院議員に当選し、中央の政財界でも活躍しました。

3 石炭と鉄

明治時代には「富国強兵」のスローガンのもと、急速な資本主義化と軍事力の近代化が目指されました。「殖産興業」政策による産業の近代化も図られ、日清・日露戦争（明治27・37年）の時期に大きく進展する産業革命や、近代重工業では、福岡県の三池・筑豊の石炭、そして八幡の鉄が、大きな役割を果たします。

三池炭鉱は、江戸時代から三池・柳川の藩営採掘が行われていました。明治6年(1873)に官営となり、21年に三井に払い下げられています。その間、近代的な技術革新が進み、戦前・戦後を通じて、一炭鉱としては国内最大の出炭量を記録しています。筑豊炭田も、江戸時代から福岡・小倉藩による統制のもとで採掘が行われていました。明治20年頃から中

央資本(三井・三菱・古河・住友など)や地元資本(麻生・貝島・安川・蔵内など)による開発が進み、明治30年代になると、全国の出炭量の半分以上を、筑豊地方の炭鉱が産出するようになります。八幡製鉄所は、軍需用鉄鋼生産のため、日清戦争を契機に設立され、明治34年(1901)に操業を開始しました。鉄鉱石は中国湖北省の大冶鉄山、石炭は製鉄所の背後に広がる筑豊炭田から供給されています。日本の近代重工業の中核として、各産業に素材を供給する重要な役割を担いました。

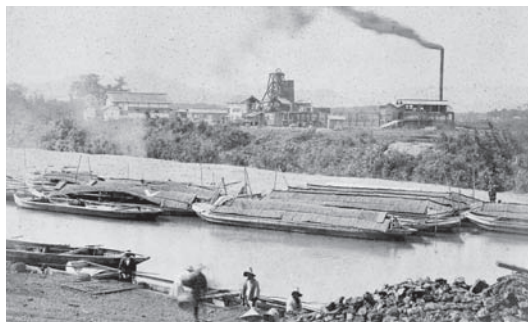
4 軍隊と戦争

福岡県内の軍隊駐屯地は、小倉・福岡・久留米にありました。日清・日露戦争からシベリア出兵、日中戦争、そして太平洋戦争など、近代日本が続けざまに経験した対外戦争では、これらの駐屯地からも多くの兵士が、大陸や太平洋に出動しています。また、太平洋戦争末期には、戦況の悪化に伴い県内各地が戦災に見舞われたほか、「本土決戦」に備えて飛行場や航空基地、軍司令部など、戦争・軍関係施設が県内にも多く造られました。現在でも、その痕跡は各所に窺うことができます。

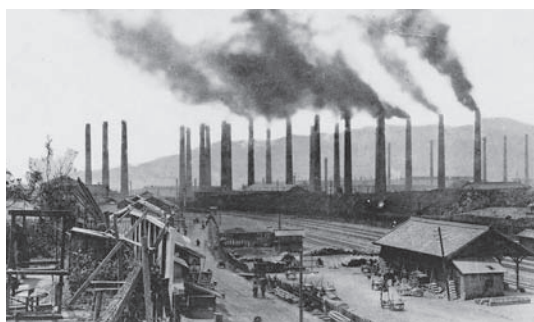
(学芸調査室 一瀬 智)



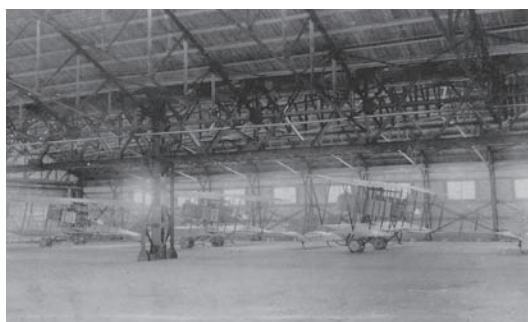
三井三池炭鉱 万田坑



川ひらた舟と鴻ノ巣御徳坑 (鞍手郡小竹町)



八幡製鉄所



大刀洗飛行場 格納庫内部



編集 発行:平成23年2月1日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>